



多様な世代による地域づくりを目指して ～高校生ボランティア育成事業の取り組み～

高砂市社協では、第5期地域福祉推進計画において「一人ひとりが思いやり 心ふれあう めくもりのまち」を基本理念に掲げ、地域福祉活動を進める担い手を育成する取り組みを行っている。

若い人もボランティア活動を

社協では、地域福祉活動を進める人材の育成として、団塊の世代や退職したばかりの住民等を対象とした「熟年ボランティア入門教室」を開催しているが、活動の担い手を若い世代にも広げてはどうかと、「高校生ボランティアTKV (Takasago Koukousei Volunteer) 育成事業」を平成25年度に立ち上げた。

最初に取り組んだのは学校訪問。「ボランティア活動をのぞいてみませんか?」という呼び掛けで、市内にある4つの高校に働きかけることから活動を始めた。ボランティア部を設置したり生徒会でボランティア活動をしている高校もあったため、それぞれの高校が独自の方法で校内に参加者の募集を行った。

そうして集まったのは高校3年生を中心とした20人弱の若者たち。活動期間は1年間で、年間を通じてボランティア活動に取り組んでいる。

月1回の集まりでは、学習を進めるとともに、取り組みたい活動の検討を行っている。さらに、毎年社協が実施している「みんなの社協フェア」での福祉啓発コーナーの企画や当日運営、「わんぱく相撲高砂場所」(高砂市青年



TKVは今年度の社協フェアでも大活躍!

会議所主催)など子どもを対象とした事業の中で、子どもと触れ合う活動や募金活動などに参加している。

生徒にとっては、活動を通じて感謝の言葉を掛けられたり、「頑張ってるね」と応援してもらえたりすることを素直に「うれしい」と感じ、いろいろな世代の人と交流できることが醍醐味であるという。また、「ボランティア活動は特別な人がしている」というイメージから、自分たちにもできる身近な活動だと気付く機会になっている。



おそろいのユニフォームでやる気アップ!

多様な世代による地域づくりへ

他のボランティア活動に関わってきた人たちからも、さまざまな年代の担い手が加わることで、活動が活気づくことを喜んでいる声が聞かれる。

「この事業は若者に活動の楽しさを感じてもらう一つのきっかけづくり。この事業で得た経験によって、地域のために自分にできることをしてもらえるようになってほしい」と市社協の畠さんは話す。

多様な世代の住民がつながり、支え合うことで、いつまでも安心して住み続けられる地域づくりに発展することが期待される。

取材を終えて

高校生が、この事業をきっかけにボランティア活動への第一歩を踏み出しました。この一歩が、これからも広がり、一人でも多くの住民が地域づくりに関わることが期待されます。そのことが、基本理念である「心ふれあう めくもりのまち」につながると感じました。

理事長から 高砂市社会福祉協議会 理事長 植原 敏行

本会においてもボランティア活動センターを設置し、さまざまな育成・支援事業を行っていますが、最近になってボランティアも高齢化が進み、担い手が減少しています。この現状を踏まえたとき、市内の高校生が東日本大震災のボランティア活動を行っていたことを知り、「災害ボランティアだけでなくさまざまな分野で活動を」との思いから、「TKV」の育成に取り組みました。学業の傍らで苦労もあるようですが、楽しみながらボランティア活動を行っています。卒業生も「OB会」をつくって今後も活動を行うということで、末永く支援を続けていきたいと考えています。

